

認知症サポーター養成講座（関東信越厚生局本局）

日 時：令和5年10月30日（月） 15時00分～16時45分

会 場：さいたま新都心合同庁舎1号館 10階 共用会議室10

参加人数：70名

参加部署：人事院関東事務局、関東管区行政評価局、関東財務局、関東信越国税局、埼玉労働局
関東経済産業局、関東地方整備局、関東地方環境事務所、関東信越厚生局

講 師：（社福）浴風会 認知症介護研究・研修東京センター長 栗田 圭一 氏

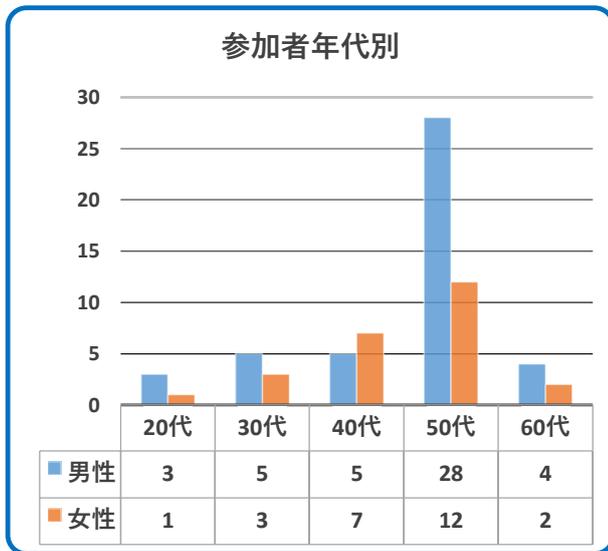
● さいたま新都心に勤務する国の地方支分部局の職員を対象に開催し、9つの官署より70名の参加をいただきました。講師から認知症について認知症サポーター養成講座の標準教材、DVD上映に加え、初めて学ぶ方にもわかりやすく作成いただいた資料や映像を踏まえて、ご説明いただきました。

参加者からは「地域の活動を気にかけて、業務にも活かせないか考えていこう」といった感想をいただき、認知症の方への支援をそれぞれの立場で考えていただくきっかけになったと思います。

～アンケート結果～

アンケート回収率：100%

1. 参加者の内訳



2. この研修に参加した感想をお聞かせください

①非常に有意義だった	②有意義だった	③どちらともいえない	④あまり参考にならなかった	⑤回答なし	合計
38	31	1	0	0	70

※自由記述 44本

○認知症の特徴だけでなく、学術的な話にまでおよび、栗田先生の力に圧倒された。（40代女性）

○認知症について理解できたこと。共生するために日本社会が動いていることを理解した。（50代男性）

○身近であることは認識していましたが、具体的には理解する機会がなかったので、大変勉強になりました。（30代男性）

3. 研修内容について理解できましたか

①よく理解できた	②まあまあ理解できた	③あまりわからなかった	④全くわからなかった	⑤回答なし	合計
31	39	0	0	0	70

※自由記述 33本

- 栗田先生が自ら診療にあたられた経験談や、事例を交えたお話で、大変分かりやすかった。(50代男性)
- 事例がとても生々しく、種類ごとのそれぞれの特性も踏まえ、強く印象に残りました。(30代男性)
- 認知症といっても色々な種類があることを初めて知りました。自分の祖父母や両親の様子を気かけようと思いました。(20代女性)

4. あなたの今後の業務や地域での支援活動において役立つ内容だと思いますか

①非常に役立つ	②まあまあ役立つ	③あまり役立つしない	④全く役立つしない	⑤わからない	⑥回答なし	合計
14	12	1	0	1	0	28

※自由記述 33本

- 共生社会実現のため、金融業界の参加が必要だと思う。個々人の対応のみならず、地域・社会で対応する必要があると思う。(50代男性)
- まずは自宅近くの地域包括支援センターがどこにあるのか確認してみたいと思います。そして自分にできることがあれば活動に参加してみたいと思います。(40代女性)
- 労働局で治療と仕事の両立支援する立場から、役立つと思いました。(30代男性)

5. その他、今回の研修について、ご意見・ご要望がございましたら自由にご記入ください

※自由記述 29本

- 認知症の方への向き合い方について、ケーススタディの様な研修をさらに行ってほしい。(50代女性)
- 日本は今後どんどん高齢化が進んでいく中で、サポートするパイが少ないことから、一人でかなりたくさんの人をサポートしていかななくてはならない。日本国内だけでは厳しいと考えられるが、この問題はどのように考えていくべきか？そういった議論もできたら良かったと思います。(50代男性)